

愛 媛 県 病 院 事 業 会 計

第 5 愛 媛 県 病 院 事 業 会 計

1 概 要

(1) 事業の実施状況

病院事業会計に属する病院は、中央、今治、南宇和及び新居浜の4病院である。

ア 病院の利用状況

病院の利用状況は次表のとおり、入院患者延べ 393,992人、外来患者延べ 745,924人、計 1,139,916人となっており、前年度に比べて入院患者は延べ 7,316人の減少、外来患者は延べ 12,592人の減少、計 19,908人減少している。

病床数は 1,659床で、前年度と同数となっており、病床利用率は 65.07%と前年度 (66.09%) より 1.02ポイント低下している。

病院名	入院・外来別	病床数	平成28年度 (A)			平成27年度 (B)			増減 (△) (A)-(B)		
			延患者数	1日平均患者数	病床利用率	延患者数	1日平均患者数	病床利用率	延患者数	1日平均患者数	病床利用率
中央	入院	827	人	人	%	人	人	%	人	人	ポイント
	外来		226,798	621.4	75.13	239,973	655.7	79.28	△ 13,175	△ 34.3	△ 4.15
	計		400,729	1,649.1		421,047	1,732.7		△ 20,318	△ 83.6	
今治	入院	320	68,297	187.1	58.47	67,434	184.2	57.58	863	2.9	0.89
	外来		141,857	583.8		140,072	576.4		1,785	7.4	
	計		210,154	770.9		207,506	760.6		2,648	10.3	
南宇和	入院	199	33,476	91.7	46.09	34,421	94.0	47.26	△ 945	△ 2.3	△ 1.17
	外来		78,782	324.2		76,813	316.1		1,969	8.1	
	計		112,258	415.9		111,234	410.1		1,024	5.8	
新居浜	入院	313	65,421	179.2	57.26	59,480	162.5	51.92	5,941	16.7	5.34
	外来		124,556	512.6		120,584	496.2		3,972	16.4	
	計		189,977	691.8		180,064	658.7		9,913	33.1	
合計	入院	1,659	393,992	1,079.4	65.07	401,308	1,096.4	66.09	△ 7,316	△ 17.0	△ 1.02
	外来		745,924	3,069.7		758,516	3,121.4		△ 12,592	△ 51.7	
	計		1,139,916	4,149.1		1,159,824	4,217.8		△ 19,908	△ 68.7	

イ 施設及び医療機器の整備状況

(7) 施設の整備状況

中央病院において、ドクターヘリの運航に向けた電気設備外改修工事を実施した。

また、南宇和病院においては空調設備改修工事を、新居浜病院においては本院及び別館の屋上防水改修工事を実施した。

(イ) 医療機器の整備状況

医療水準の高度化並びに診療及び診療支援業務の合理化・効率化を図るため、中央病院の超音波診断装置をはじめとして、今治病院のデジタルX線テレビ、南宇和病院の器具除染用洗浄機、新居浜病院の臨床用ポリグラフなど総額 4億 5,441万円で 136点の機器を整備している。

(2) 経営状況

経営状況（消費税等を含まない額）は、医業収益に医業外収益を加えた総収益が 44,564,136,743円、医業費用に医業外費用を加えた総費用が 44,346,516,341円で、差引き 217,620,402円の純利益を生じており、総収支比率（総収益÷総費用×100%）は 100.49%となっている。

前年度（40,120,159円の純利益）と比較すると、純利益は 177,500,243円（442.42%）増加し、総収支比率も 0.40ポイント上昇している。

また、累積欠損金は 20,360,116,205円となっており、前年度より 217,620,402円減少している。

2 予算及び決算の状況（決算報告書）

予算額に対する決算額及びその内容は、次のとおりである。

(1) 収益的収入及び支出

収 入

区 分	予算額 (A)	決算額 (B)	予算額に比べ 決算額の増減(△)	執行率 (B)／(A)	備 考
	円	円	円	%	
病院事業収益	48,792,659,000	44,651,459,948	△ 4,141,199,052	91.51	
医業収益	42,000,273,000	38,017,847,943	△ 3,982,425,057	90.52	
医業外収益	6,790,386,000	6,633,612,005	△ 156,773,995	97.69	
特別利益	2,000,000	0	△ 2,000,000	0.00	

病院事業収益決算額は 44,651,459,948円、予算額に比べて 4,141,199,052円の減収となっており、執行率は 91.51%となっている。

医業収益の主なものは入院収益 26,856,350,659円である。

支 出

区 分	予算額 (A)	決算額 (B)	翌年度繰越額	不用額	執行率 (B)／(A)	備 考
	円	円	円	円	%	
病院事業費	48,318,191,000	43,632,009,671	0	4,686,181,329	90.30	
医業費用	47,232,131,000	42,734,635,339	0	4,497,495,661	90.48	
医業外費用	1,076,560,000	897,374,332	0	179,185,668	83.36	
特別損失	8,000,000	0	0	8,000,000	0.00	
予備費	1,500,000	0	0	1,500,000	0.00	

病院事業費決算額は 43,632,009,671円、4,686,181,329円の不用額を生じており、執行率は 90.30%となっている。

医業費用の主なものは、給与費 22,363,410,843円、材料費 10,017,540,913円である。

医業費用の不用額の主なものは、給与費、材料費である。

(2) 資本的収入及び支出

収 入

区 分	予算額 (A)	決算額 (B)	予 算 額 に 比 べ 決 算 額 の 増 減 (△)	執行率 (B) / (A)	備 考
	円	円	円	%	
資 本 的 収 入	5,491,324,000	5,303,712,799	△ 187,611,201	96.58	
企 業 債	689,000,000	477,500,000	△ 211,500,000	69.30	
国 庫 補 助 金	1,000	0	△ 1,000	0.00	
他 会 計 か ら の 借 入 金	3,000,000,000	3,000,000,000	0	100.00	
他 会 計 か ら の 負 担 金	1,802,323,000	1,796,827,000	△ 5,496,000	99.70	
固 定 資 産 売 却 代 金	0	26,385,799	26,385,799	—	
雑 入	0	3,000,000	3,000,000	—	

資本的収入決算額は 5,303,712,799円で、予算額に比べて 187,611,201円の減収となっており、執行率は 96.58%となっている。

支 出

区 分	予算額 (A)	決算額 (B)	翌年度繰越額	不用額	執行率 (B) / (A)	備 考
	円	円	円	円	%	
資 本 的 支 出	7,679,338,000	7,270,384,182	0	408,953,818	94.67	
病 院 設 備 費	1,303,843,000	894,889,806	0	408,953,194	68.63	
企 業 債 償 還 金	3,047,495,000	3,047,494,376	0	624	100.00	
他 会 計 か ら の 借 入 金 償 還 金	3,328,000,000	3,328,000,000	0	0	100.00	

資本的支出決算額は 7,270,384,182円で、408,953,818円の不用額を生じており、執行率は 94.67%となっている。

なお、資本的収入額が資本的支出額に不足する額は損益勘定留保資金で補てんしている。

3 経営成績（損益計算書）

当年度の経営成績は別表1のとおりで、その内容は次のとおりである。

当年度純利益は 217,620,402円となっており、前年度に比べて 177,500,243円（442.42%）増加している。

(1) 医業損失

医業収益 37,947,346,797円に対し、医業費用は 42,223,125,136円で、差引き 4,275,778,339円の医業損失を生じており、前年度に比べて 173,262,714円（3.89%）減少している。

医業収益は、前年度に比べて 1,369,257,043円（3.74%）増加している。これはその他医業収益が減少した一方で、主として入院収益が増加したことによるものである。

医業費用は、前年度に比べて 1,195,994,329円（2.92%）増加している。これは主として資産減耗費が減少した一方で、材料費及び給与費が増加したことによるものである。

(2) 経常利益

医業損失に医業外収益 6,616,789,946円を加え、医業外費用 2,123,391,205円を差し引いた経常利益は 217,620,402円となっており、前年度に比べて 177,500,243円（442.42%）増加している。

医業外収益は、前年度に比べて 33,332,201円（0.51%）増加している。これは長期前受金戻入が減少した一方で、主として一般会計からの負担金が増加したことによるものである。

医業外費用は、前年度に比べて 29,094,672円（1.39%）増加している。これは支払利息が減少した一方で、主として非課税売上分消費税が増加したことによるものである。

(3) 当年度純利益

経常利益の 217,620,402円が当年度純利益となっており、前年度に比べて 177,500,243円（442.42%）増加している。

なお、病院別損益の状況は別表3のとおりである。

4 剰余金の状況（剰余金計算書）

当年度における剰余金の増減については、次のとおりである。

(1) 資本剰余金

当年度末残高は 319,646,586円で、前年度末残高と同額である。残高の内容は受贈財産評価額である。

(2) 未処理欠損金

前年度繰越欠損金 20,577,736,607円から、当年度純利益 217,620,402円を加えた当年度末の未処理欠損金残高は 20,360,116,205円となっている。

5 財政状態（貸借対照表）

当年度末における財政状態は別表2のとおりで、その内容は次のとおりである。

資産は 53,843,827,271円となっており、前年度に比べて 1,913,901,767円（3.43%）減少している。

負債は 66,836,252,512円、資本は △12,992,425,241円となっており、前年度に比べて負債は 2,131,522,169円（3.09%）減少し、資本は 217,620,402円（1.65%）増加している。

(1) 資 産

ア 固定資産は 43,443,823,005円で、資産合計に対する構成比率は 80.68%となっており、前年度に比べて 2,126,008,159円減少している。これは主としてリース資産が増加した一方で、病院設備が減少したことによるものである。

イ 流動資産は 10,400,004,266円で、資産合計に対する構成比率は 19.32%となっており、前年度に比べて 212,106,392円増加している。これは主として現金預金が減少した一方で、未収金が増加したことによるものである。

なお、未収金 7,741,185,693円のうち医業未収金は 7,622,515,974円で、その内容は、保険者負担分 7,075,238,029円、個人負担分 547,277,945円となっており、個人負担分のうち過年度未収金は 385,286,022円となっている。

(2) 負 債

ア 固定負債は 50,128,889,366円で、負債資本合計に対する構成比率は 93.10%となっており、前年度に比べて 2,459,450,957円減少している。これは、退職給付引当金が増加した一方で、建設改良費等の財源に充てるための企業債が減少したことによるものである。

イ 流動負債は 9,256,280,786円で、負債資本合計に対する構成比率は 17.19%となっており、前年度に比べて 479,463,730円増加している。これは主として、未払金、建設改良費等の財源に充てるための企業債が増加したことによるものである。

ウ 繰延収益は 7,451,082,360円で、負債資本合計に対する構成比率は 13.84%となっており、前年度に比べて 151,534,942円減少し

ている。

(3) 資 本

ア 資本金は 7,048,044,378円で、負債資本合計に対する構成比率は 13.09%となっており、前年度と同額である。

イ 剰余金の内訳は、資本剰余金 319,646,586円、欠損金 20,360,116,205円となっている。

6 キャッシュ・フロー（キャッシュ・フロー計算書）

当年度におけるキャッシュ・フローは別表4のとおりで、その内容は次のとおりである。

業務活動によるキャッシュ・フローは 1,472,559,811円、投資活動によるキャッシュ・フローは 1,361,516,550円、財務活動によるキャッシュ・フローは △3,255,207,820円となっている。資金期末残高は 2,644,027,942円となっており、前年度に比べて 421,131,459円減少している。